結城農業かわら版

第167号
令和6年12月20日

発行元：結城地域農業改良普及センター
TEL：0296-48-0184
FAX：0296-48-2682

QRコードから
HPにアクセス

県全域のナシ生産者が「恵水」ジョイント栽培を学ぶ

11月21日、八千代町のナシ園で、県育成ナシ品種「恵水」の樹体ジョイント栽培による早期多収実証モデル圃場現地研修会が開催され、県内ナシ生産者および関係機関約80名が参加しました。

圃場の概要を説明する
結城普及センター職員(奥中央)

ナシの樹が整列する
樹体ジョイント栽培園(７月撮影)

この圃場では令和4年から、早期多収新技術である「ナシ樹体ジョイント栽培」の導入による「恵水」の出荷量増大と、儲かるナシ経営体の育成を目的に、茨城県梨組合連合会及び農林振興公社、農業総合センターの共催で、現地研修会が毎年2回行われてきました。

今回は、結城普及センターから、①ジョイント栽培により定植5年目（慣行栽培の半分の期間）で目標収量（4t/10a）を確保できること、②これまでの生育状況の振り返り、③早期多収に向けた栽培管理のポイント、④「恵水」高温対策試験の結果を説明しました。

また、これまでの研修会を通じて技術を導入した県内各地の事例が紹介されました。生産者からは「恵水はジョイント栽培に向いている」「ジョイント栽培は計画的に収益性が確保できる」との意見があり、新品種・新技術導入による経営向上について、生産者同士で情報を共有する良い機会となりました。

普及センターでは、農業総合センター技術体系化チームと連携し、モデル圃場の実証結果をもとに、今後、「恵水」樹体ジョイント栽培マニュアルを作成する予定です。

災害に備え農業用ハウスを確認しましょう

自然災害による被害の防止に向けた農業用ハウスの補強対策、保守管理等の事前対策、発災した場合に必要とされる事後対応を円滑かつ確実に行うことができるよう、県は農業用ハウスを利用する農業者に向けて、「茨城県農業用ハウス災害被害防止マニュアル(令和6年9月改定)」を作成しました。

農業用ハウスの被害軽減や、適切な事後対応のために、フローチャートやチェックシートなど、わかりやすく掲載されているのでぜひご活用ください。

マニュアルは下記
のQRコードから

JA北つくば結城園芸部会　秋冬白菜生産者大会
～これからの生産・販売へ意識を向上～

11月14日、JA北つくば結城支店において、JA北つくば結城園芸部会の秋冬白菜生産者大会が開催され、生産者、来賓、関係機関合わせて約70名が参加しました。

本年は定植時期に高温やゲリラ豪雨等厳しい気象条件でしたが、丁寧な栽培管理により順調な出荷開始を迎えられており、各関係機関代表者のあいさつでは産地への慰労の言葉が多く述べられました。

大会では、前年作に対する市場及び生産者の表彰のほか、産地側、販売側それぞれの方針表明やスローガンの共有を行い、関係者協力の下、生産及び販売を強化していく意識が高められました。その後、2024物流問題をテーマとした講演が行われました。

出荷規格の説明を受ける生産者

また、当日は併せて出荷目揃会が開催され、市場担当者と産地状況、販売状況について情報交換を行ったあと、出荷物を見ながら調整の注意点等について確認しました。普及センターからは、管内の害虫発生状況や病害虫の防除について情報提供しました。

今後も普及センターでは、野菜産地の発展のため支援を行っていきます。

生産者と市場関係者が秋冬ネギの品質を確認

11月26日、JA常総ひかり下妻千代川支店にて、ネギ部会秋冬ネギ統一品評会・目揃会が開催され、部会員及び関係者など約50名が参加しました。本年の秋冬ネギの作付面積は34.2haで、若い世代の新規作付者による面積拡大により、昨年度より3.2ha増加しています。

品評会は、品質や規格など流通の視点で審査していきました。6名から出品があり、結果は来年の総会時に報告され、上位入賞者が表彰される予定です。

目揃会では、市場から市場情勢及び産地情勢について情報提供があり、「夏場の高温干ばつ等により、出荷が遅れていますが、出荷規格に準じた選別をお願いしたい。」とあいさつあり、出荷規格や品質、注意点などについて出荷品の現物をもとに生産者とともに確認しました。

品質を確認する市場関係者

また、部会長からは「異常気象の影響により病害虫の発生が多く見られました。今後も防除を徹底し、高品質生産に努めていきましょう。」との話がありました。

普及センターからは、ネギの高品質・安定生産のため、今後も注意が必要な病害虫対策について注意喚起しました。

当産地は、12月中旬に出荷ピークを迎えました。今後も露地野菜の産地を支援していきます。

～農作物の盗難に注意しましょう～